

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 12 月 25 日

事業所名 放課後等デイサービスリアン府中緑町

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	3	2	1		体を動かして遊ぶ場所と静かに座って遊ぶ場所が混在しないようにしている。	広いスペースを必要時にはパーテーション等で分けて使えるようにしていくことで子どもがより安全に安心して過ごせるようにしていく。
	2 職員の配置数は適切である。	1	4	1		外出時や運動系の活動時は支援員を多く配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている。	3	3			室内は完全バリアフリーとなっている。 今秋、床と壁紙の貼替をした。	
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している。	4	2				PDCAサイクルの業務改善は今後も継続していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	5	1			保護者向けアンケートの結果は全職員に回覧して把握している。その上で課題解決に向けて全員が考えて行動できるようにしている。	一度にすべての業務改善をすることは難しいが確実に業務改善をして、保護者の方に安心していただけるようにしていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	5	1			ホームページで公開している。	ホームページで公開していることを保護者にお知らせしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	1	3	2			まだ実施していない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	5	1			社内研修の機会を設けている。	行政の研修や民間企業の研修等に積極的に参加していけるように体制を整えていく。
適切 な 支 援 の 提 供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している。	4	2				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	4	2			使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている。	5	1			全員でアイデアを出し合って活動予定の立案をしている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	5	1			同じ活動が続かないよう工夫している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している。	6					
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している。	6				集団活動と個別活動を組み合わせてそれぞれで子どもたちが楽しめるようにしている。	これから子どもたちが楽しめる活動と成長に合わせてより楽しく挑戦できる活動を組み合わせしていく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	5	1			開始前に打ち合わせをしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。		6			毎日とは出ていないが必要時には情報を共有して次の支援につなげていけるようにしている。	気付いたことはその日のうちに報告して共有し、各自が子どもへより良い支援をして行けるようにしていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	4	2			一人ひとりのその日の様子は記録に残している。	全員が記録を確認することで子どもの成長や課題に向き合えるようにしていく。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。	3	3			六か月ごとに行っている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている。	3	3				
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	3	3				
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。	4	2			下校時間の確認や学校行事の確認は保護者の方にご協力いただくことで忘れずに出来ている。予定の変更があった時には連絡をいただけるようお願いしている。送迎時にトラブル等が起こった時にはすぐに事業所に連絡をするように体制を整えている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている。	1	5			現時点では受け入れていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。	2	3	1			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。		5	1		今まで提供したことはないが、必要時には提供が出来るようにはしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	1	5				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある。	1	2	3			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している。		4	2		協議会等へは積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	5	1			連絡帳や送迎時にその日の子どもの様子は可能な限り伝えるようにしている。	これから子どもの様子は共有していき、保護者の皆様にとって安心していただけるようにしていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。		5	1			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	5	1			契約時に説明している。活動内容により利用者実費負担がある場合は事前に文書で連絡している。	これから丁寧に対応していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	5	1			相談があった時には可能な範囲で助言と支援を行っている。	保護者にとって安心できる場所であるために信頼関係を大切にして対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。		2	4			今後、保護者会等の機会を設けることを検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	4	2			苦情があった時にはすぐに状況を確認して、保護者に報告できるようにしている。	これからも苦情等に対しては職員で検討して保護者に報告し、保護者の気持ちを親身に受け止めて安心して利用していただけるように体制整備はしっかりとしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	6				毎月『緑町便り』を発行している。	
	35	個人情報に十分注意している。	6				カギ付きの書庫に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	6				子どもに合ったいろいろな方法で子どもが自分の力で伝えることが出来るようにしている。	これからも一人ひとりのコミュニケーション力に合わせて気持ちを伝えていけるように工夫していく。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。		3	3			
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している。	5	1			マニュアルは作成している。何時でも確認できるようにしている。	周知されていないので、適宜確認していけるように周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	6				毎月避難訓練を行っている。	今後も災害発生に備えて避難訓練は継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	6				毎年、研修を行っている。	これからも研修の機会を確保して虐待防止の意識を高めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している。	3	3				
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	2	4			アレルギーに関しては保護者に事前確認をして、職員全員に周知徹底している。		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	6				ヒヤリハット報告書を作成して、職員全員が情報を共有できるようにしている。		